

2月9日(火) 令和4年度当初予算

記者会見 質疑応答要旨

道の駅「くるくるなると」整備事業(四国のゲートウェイ推進事業)

(記者)

道の駅に隣接する JA の農産物直売所「えがお」ですが、反対署名を市長に提出したという話がありましたかどうですか。また、「えがお」の運営事業者はどちらになるのでしょうか。

(市長)

「えがお」の運営事業者は JA 大津松茂になっており、道の駅について、令和4年1月時点で話がまとまっているところであります。

道の駅整備の計画段階から、地域の方や JA 大津松茂の方々と協議会を立ち上げ、市としては「えがお」を含めた一帯全てが道の駅機能を持つ連携施設となるよう協定を締結しております。

JA 大津松茂から、製品の競合、売り場面積、交通等に関してご意見をいただきましたので、対応させていただき、現在、連携協定どおり進めている状況です。

サイクルツーリズムを中心とした地域活性化推進事業

(記者)

大鳴門橋の自転車道はどういった団体関わっていますか。

(市長)

徳島県と兵庫県で協議をしております。

現時点では、予算的な部分や進捗状況について、具体的な内容はお聞きしておりませんが、(自転車道を)作るという方向で進んでいるのではないかと思います。

(記者)

市として来年度、取り組むことはありますか。

(市長)

南あわじ市とは、ASA トライアングル交流推進協議会を平成 2 年から 30 年ほど続けています。

同じ資源を活用した観光施策として、渦潮はもちろんのこと、鳴門海峡のブランド化、世界遺産化も進めております。お互いにサイクリングは非常に有益なものであると認識しており、両者で(連携協力をして事業

を)進めていこうとしているところです。

具体的には、令和 3 年度から 3 年間において国の補助金を活用し、事業展開を図っているところです。

(記者)

(自転車道に関連する)事業は、来年度の当初予算に計上されていますか。

(職員)

大阪・関西万博などを睨み、サイクリストへの支援等の事業費として 1,200 万円を計上しています。

また、さきほど市長が申し上げた、南あわじ市との連携事業である「広域観光ブランディング事業」2,875 万円を、サイクリング・自転車道等の関連予算として計上させていただく予定としています。

(記者)

「地域活性化企業人の人件費等」とありますが、これはどういった事業ですか。

(市長)

国における「地域活性化企業人制度」に基づき、民間企業が持つ専門知識や業務経験を生かしたノウハウを活用し、本市事業にご協力いただく予定としております。このたびは、さきほども申し上げました、サイクリング関連事業や、観光振興について取り組む予定としております。

当初予算について

(記者)

当初予算の総額は4.3%減となっておりますが、これはどうしてでしょうか。

(市長)

大きく違うところは、令和3年度当初予算では、ボートレース事業収益金の繰入金がありました。令和4年度当初予算では、繰入金を(例年ベースの)2億円としたことによるものとお理解いただければと思います。

(記者)

税収について増えていますが、どうしてでしょうか。

(市長)

前年度比として(は増えている状況)ですが、前年度についてはコロナ禍で税収がどういった状況になるか分からないところがありましたので、かなり厳しく(予算額を)見積もっていたところがありました。

実質的には、令和2年度以前の税収には戻っていないというところがあります。